

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (北海道)		乗用車販売店（従業員）	・今後、7～9月にかけて当社の人気車種のマイナーチェンジ、フルモデルチェンジが相次ぎ、今期一番の山が見込まれるため、巻き返しが一気に図れ、景気も良くなる。
		商店街（代表者）	・例年であれば、当地の夏まつりも終了し、来街者が減少傾向になる時期だが、今年はフリーWi-Fiの整備が7月に完了するため、若年層を中心に来街者数の良い状態を維持できる。カラオケなどの遊興施設、コンビニ、ファーストフード店などの飲食店で例年以上の売上が望める。
		商店街（代表者）	・夏の行楽シーズンを迎えてイベントなどで好調な入込が期待できる。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・前年の台風被害の影響もあり、道内客の動きがあまり良くないという声も聞こえるものの、当社の6月の売上は前年比、一昨年比共に98.4%と前年並みであったことから、今後についてはやや良くなる。ただ、当市において、従業員を集められないことで、体力の少ない企業の店じまいや倒産の噂話が随分と出てきていることが気がりである。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・外国人観光客の購買単価は頭打ちになっているものの、依然として外国人観光客が増加傾向で推移していることに加えて、これから夏の観光シーズンを迎えて、LCC利用の国内客の動きも期待できるため、今後の売上は回復することになる。
		百貨店（担当者）	・商業施設のオープンによる周辺のにぎわいを持続させ、消費マインドを高めるようなイベントを地区内の各施設で行っていくことで、今以上の消費が期待できる。
		百貨店（販売促進担当）	・6月は週末の雨が多く、市内客の来店に大きく影響したため、7月以降、気温の上昇とともに夏物衣料を中心とした買上が増えることが期待できる。
		乗用車販売店（従業員）	・前年と比較して、新型車の発表や新車種の追加などの話題が多く、来客数や販売量の増加が期待できる。
		高級レストラン（経営者）	・中国などからの外国人観光客が減ったため、その分売上が下がってきているものの、これから観光シーズンを迎えることで景気はやや上向きになる。ただ、特別に良い材料は見当たらないため、天候などによっては大きな影響が生じることになる。仮に今年も台風が直撃するようなことがあれば、農作物も打撃を受けることになり、景気は良くならない。
		観光型ホテル（スタッフ）	・お盆の曜日並びが良いこともあり、団体、個人国内客が好調に推移している。外国人観光客については、中国、台湾、韓国が堅調な反面、タイ、マレーシアが伸び悩んでいる。
		観光型ホテル（役員）	・夏場の集客が比較的堅調に推移しており、予約単価も若干上昇傾向にある。
		旅行代理店（従業員）	・夏場の観光需要は今年も堅調と思われるが、7～8月の東京便が機材繰りなどの関係で前年よりも座席供給量が減少するため、その影響が懸念される。また、陸上、ラグビーを中心にスポーツ合宿の活発な動きがみられ、今後も東京オリンピックやラグビーワールドカップに向けた動きが期待できる。
		旅行代理店（従業員）	・下半期の旅行に関する相談の件数が、ここ数日多くなっているため、今後についてはやや良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・ボーナスが支給され、旅行やレジャーなどを検討する客が増えてくることが見込まれる。
		通信会社（企画担当）	・都市部を中心に販売強化施策を予定しているため、その効果が期待できる。
		美容室（経営者）	・例年、外出が多くなる時期となるため、6月よりも売上が増加すると期待している。
	美容室（経営者）	・気温の上昇とともに来客数の増加や来店サイクルの縮小が期待できる。	
	商店街（代表者）	・生活防衛型の消費が定着しており、客の積極的な消費意欲が感じられないため、今後も変わらない。	
	商店街（代表者）	・北朝鮮問題の影響もみられず、何も変わらない状況で推移しているため、今後も同じような状況で推移する。	
	商店街（代表者）	・観光のオンシーズンを迎えるため、今後も景気の良い状態が続く。	
	商店街（代表者）	・外国人観光客の入込が多く、一時期心配された客単価低下の動きも落ち着いてきたことから、今後も売上を下支えすることが見込まれ、景気は現状のまま推移する。	

一般小売店〔酒〕（経営者）	・今年に入ってから売上に勢いがみられない。例えば今週の売上がとても良かったとしても、次の週が全くだめだったりする。6月の売上も前年から5%以上も落ち込んでおり、今後も同じような状況で推移する。
百貨店（売場主任）	・当社の売上は若干ながら回復傾向にあるが、あくまでも前年の施策失敗の反動によるものであり、食品が伸びれば衣料品が下がり、高額商材の売上が前年並みの水準で推移するなど、景気の回復又は落ち込みを表すような明確なサインがみえないため、現状維持のままで推移する。同業他社も似たような状況にある。
百貨店（役員）	・6月にみられた初夏の客の動きから、8月一杯までは今の状況が続く。
百貨店（営業販促担当）	・来客数については、今後も催事、企画の内容次第で前年並みを維持できる。ただし、その場合、客の来店目的が催事、イベントに限られるため、食料品や化粧品の微増は見込めたとしても、衣料品の売上減少は続くことになる。今後については、商品構成の見直しをにかけていくことが重要課題となってくる。
スーパー（店長）	・来客数の減少傾向が今後も続く。
スーパー（店長）	・景気が変動するような要因が見当たらないため、今後も変わらない。
スーパー（店長）	・変動要因がないため、今後も変わらない。
スーパー（役員）	・年金や保護費の支給日に客の来店が集中するため、各業態では支給日やその直後に集中して販促を行っているが、支給日前の2週間の来客数がこれまでよりも少なくなっている。相当シビアな状況になってきており、今後もこうした状況が続く。
スーパー（役員）	・前年ほどの観光客の増加が期待できず、これといったプラス要因が見当たらない。
コンビニ（エリア担当）	・天候条件が悪い時の落ち込みが大きい。無駄な消費を抑える傾向も依然として強い。客の消費マインドは弱いままであり、消費の上乗せにつながるような要素が少ないため、今後も変わらない。
コンビニ（エリア担当）	・春先の流氷の影響で、コンブ漁の水揚げの悪い状況が続いており、沿岸地区の店舗を中心に売上が厳しくなることが懸念される。
コンビニ（エリア担当）	・年金支給日や給料日に動きはみられるが、それ以外の日の引き締め感が強いため、今後も変わらない。
コンビニ（オーナー）	・最近の健康志向の高まりから、サラダや低糖質品の売上が好調である。健康志向の商材の品ぞろえの良さが来客数や客単価アップのポイントになってきている。
衣料品専門店（店長）	・来客数や売上金額が増えてこないため、今後も変わらない。
家電量販店（経営者）	・景気が上向き材料が見当たらない。
家電量販店（店員）	・猛暑になり、消費が上向きことを期待している。前年の台風被害の復旧工事で当地に工事関係者が多く来ていることもプラスとなる。
乗用車販売店（経営者）	・今年前半からの需要の高まりは、レンタカー需要も多分に含んでおり、現状が上限とみられるため、今後も変わらない。
その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・年金額の見直しに加えて、テレビや雑誌などでの過剰、過度な健康情報が軽医療産業に影響を与えている。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・当面、石油製品の価格が変動するような要因がないため、今後も変わらない。
旅行代理店（従業員）	・第2四半期の先行受注状況が決して良くないため、先行きが読めない。
旅行代理店（従業員）	・良くなる材料が見当たらない。
タクシー運転手	・6月までの上半期の売上実績から、これからも前年並みで推移する。
タクシー運転手	・この先の予約や問い合わせなどの件数が特に増えているわけではないため、今後も変わらない。
タクシー運転手	・今後も例年どおりの傾向で推移するとみられる。
タクシー運転手	・人口減少に伴う需要減少に歯止めがかからないため、今後も変わらない。
観光名所（従業員）	・前年の北海道新幹線の開業効果が徐々に収束していることがマイナスに働くものの、前年と比べて天候の良い状況が見込まれることがプラスに働き、全体として大きな変化はないまま推移する。

	観光名所（職員）	・前年を上回る来客数が続くなど、好調を維持している。外国人観光客の増加が大きな要因とみられ、今後も好調なまま推移する。
	美容室（経営者）	・特に不安要素もないが、ここ半年の様子をみても景気の上昇機運までは感じられない。ただ、新商材の購買意欲も衰えていないため、今後も変わらないまま推移する。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・9月上旬までは現在の輸送量が続くと思込める。
	住宅販売会社（経営者）	・非住宅は堅調に推移するとみられるが、一般住宅は頭打ちの状況が続くため、今後も変わらない。
	スーパー（店長）	・6月は酒類、特にビールの値上げによる反動がみられた。また、前月に続いて買上点数や客単価は伸びているものの、来客数の減少に歯止めがかからないため、今後についてはやや悪くなる。
	スーパー（企画担当）	・6月からのビールの値上げを控えて、5月に駆け込み需要がみられたこともあり、6月に入ってからビール類の売上が大きく落ちている。競合各社の中には値下げに向けた動きも出ており、価格の上昇機運が定着しないことを懸念している。
	コンビニ（エリア担当）	・映画の撮影が行われていることで、関係者などによる来店が増えているが、撮影が終了すると売上が下がることになる。
	乗用車販売店（従業員）	・新型車効果はいつまでも続くものではないため、今後については景気が下向くことを懸念している。
	その他専門店〔造花〕（店長）	・物価の上昇などが続いているため、消費拡大につながっておらず、今後についてはやや悪くなる。
	高級レストラン（スタッフ）	・食材の値上がりが続くなか、日欧EPAの交渉の結果、輸入チーズが安くなれば、外食利用や景気上昇のきっかけになることが期待できる。しかしながら、北海道のチーズ生産者や生乳生産者に大打撃を与えることも懸念され、北海道の酪農業に大きな影響が生じることが懸念される。
	高級レストラン（スタッフ）	・夏のボーナスが消費に回れば良いが、影響は一部の消費にとどまるとみられるため、今後についてはやや悪くなる。
	タクシー運転手	・内需については好転材料がないため、今後の景気はやや悪くなる。ただ、外国人観光客の旅行形態が富裕層を中心に個人旅行にシフトするようになれば、観光需要の増加が期待できる。
	タクシー運転手	・タクシー業界は全体的な景気動向に左右されやすく、景気が上向くためには景気回復が前提となる。地方での景気回復が遅れている現状からは、今後も景気の悪い状況が長引くとみられる。
	パチンコ店（役員）	・各種の値上げが客の消費動向を抑えているため、今後の景気はやや悪くなる。
	住宅販売会社（経営者）	・分譲マンション市場は低金利の恩恵を受けているが、その一方でマンション用地と建築価格の高騰で販売価格が上昇しており、販売戸数が伸び悩んでいるため、今後についてはやや悪くなる。
	x	* *
企業動向関連 (北海道)	-	-
	食料品製造業（従業員）	・スポット商材ではあるが、大型案件が決まってきているため、今後2～3か月先についてはやや持ち直す。
	建設業（経営者）	・土木建築、官民工事共、施工の最盛期となる。土木分野では、補正予算による災害復旧工事も増えている。ただ、人手不足や河川工事に用コンクリートブロックなどの資材の供給がタイトとなっていることから、工期への影響が懸念される。
	建設業（従業員）	・農業を中心とした公共事業が続くことが見込めるため、中小を含めた建設業者の活況が期待できる。その一方で、人手不足の影響が懸念される。
	建設業（役員）	・公共工事の入札案件の出足が順調であり、今後も土木工事関係の受注が期待できる。
	金融業（従業員）	・良好な雇用環境や幅広い業種での賃上げによって、個人消費は緩やかな持ち直しが続く。公共投資や外国人観光客による消費が道内景気を押し上げることも見込まれるため、道内景気はやや良くなる。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・年度内の鉄骨市場の受注が決まってきている。道東を中心に建築構造物の建設予定も多く、当分の仕事量が見込める状況にある。
	食料品製造業（従業員）	・キャベツや玉ネギの仕入価格が見込みよりも安くなっていることがプラスとなる。ただ、販売量は、前年が好調だったことの反動で前年を上回れない月が出てきている。

	家具製造業（経営者）	・政治の混乱が収まらない限り、先行きの不透明感が払拭されない。そのため、大都市圏の景気がまずまずで推移したとしても、地方都市での好転は当分見込めない。
	輸送業（支店長）	・引き続き本州からの輸送量が順調に推移すると見込んでいるが、大型のスポット輸送の引き合いが依然として弱いため、現行と変わらないまま推移する。
	輸送業（営業担当）	・新年度も農作物関連の在庫がほとんどないなかでスタートしており、今秋の新物収穫時期まではこの状況が続く。
	通信業（営業担当）	・今後、しばらくは受注量、単価共、大きく振れる可能性が低く、景況感は現状のやや良い状態のまま推移する。
	司法書士	・地域性や高齢化の進展などから、一部の業種を除けば目立った動きはみられず、当地の景気も可も不可もない状況が続く。
	司法書士	・食料品を中心に日用品の価格が上昇している一方で、給与の増加もみられないことから、今後も景気の回復を感じることはないまま推移する。
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・前年の同時期と比べると新規案件の話が少ない。また、話があっても規模の小さい話が多い。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・災害復旧工事が底支えとなり、今後も堅調なまま推移する。ただし、人手や工事資材の不足による入札不調も散見されており、予断を許さない状況になってきている。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・景気が今以上に上向くことは考え難いため、現状のまま推移する。
	司法書士	・都市部ではペースアップの話も聞かれるが、地方では現状維持のままであるため、今後、不動産取引や建物の新築着工が増加することは考え難い。
	x	-
雇用 関連 (北海道)		
	求人情報誌製作会社（編集者）	・前年夏の台風被害の復旧工事のテンポが速く、大型の公共施設の建設工事でも人手不足ではあるものの、順調に推移していることから、今後についてはやや良くなる。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・今年は天候が順調に推移しており、前年に比べて農作物が順調に生育していることに加えて、前年は台風被害の影響で落ち込みがみられた観光業界が持ち直していることから、今後についてはやや良くなる。
	人材派遣会社（社員）	・現在の旺盛な派遣ニーズは秋まで続く。社員の採用についても現状のまま推移するとみられ、今後の求人数の増加が見込める。ただ、企業側が求めるスキルは高く、安易に採用を決定しない傾向にある。一方、人材側も、内定をもらっても別の求人に興味を示し、内定を辞退する人も多い。採用のミスマッチが起きており、企業側は採用活動のストレスが高まっているようである。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・正社員の求人が過去2年の件数をやや上回っている一方で、アルバイトなどの非正規の求人は下回って推移している。全体としては例年どおりの水準を維持しており、しばらくは大きな動きはないとみられる。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・景気は上向きだが、求人件数は天井感がある。人が集まらない状態はしばらく続く。
	職業安定所（職員）	・月間有効求職者数が前年を下回り、月間有効求人数が前年を上回る傾向が今後も続く。
	職業安定所（職員）	・新規求人数が増加し、新規求職者数が減少する状況の下で、必要な人員を確保できず、受注調整を行っているとの話も聞こえてくる。今後もこうした状況は変わらず推移する。
	職業安定所（職員）	・極端に景気が悪化することはないが、水産加工業者が前年の厳しい状況から回復できるか、観光客が前年の好調を維持できるかといった懸念材料がある。
	職業安定所（職員）	・有効求人倍率が9か月連続で前年を下回っており、先行きに不透明感が出てきている。
	学校〔大学〕（就職担当）	・11月までは新卒を求める企業側の動きが高止まりで推移する。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・労働力人口の高齢化と若年層を始めとした人口減少の影響により、今後についてはやや悪くなる。
	x	-